

～さがそうみらいプロジェクト～

キャリア教育だより

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和7年7月発行 No.1



5月16日(金)に、令和7年度第1回 キャリア教育推進委員会が行われました。

筑波大学 藤田 晃之 教授、青山学院大学 原 晋 教授をはじめ、関係機関の代表、小学校長会、中学校長会の代表、庁内関係各課の長等、21名の委員から、本市キャリア教育や、今後の取組についてご意見をいただきました。



キャリア教育推進委員会の協議内容より～一部抜粋～

コミュニティ・スクール

地域との連携

コミュニティ・スクールの導入により、子どもの学びが豊かになっている。

毎年夏に行っている「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」において子どもたちが起業の模擬体験ができる場を提供している。

この場でたくさんの大人が子どもたちの幸せを願い真剣に話しているこの状況こそが、キャリア教育を進める上でとても大切なこと。

大人になってわかることは、親だけでなく、地域に育てられたということ。



障がいのある方の困り感を考え、どのような支援をしていけばよいのかを考えるような雰囲気が広がってきていると感じる。

地域の方々が学校に寄り添い、学校が求めていることを地域に発信して、学校と地域をつないでいくような取組を積極的に進めていきたい。

地域学校協働活動とコミュニティ・スクール推進事業が本格的な事業に移行するに当たり、2つの事業は一体的に進めていくことが重要になる。

推進委員が学校運営協議会で発信した意見が学校運営に反映され、子どもたちが成長した様子を見られたことで、年を追うごとに生徒たちの様子、学校の様子が変わってきた例がある。

職場体験

多様な体験の大切さ

上溝小学校と上溝公民館において、青年会議所のメンバーと上溝商店街の方が一緒に21の職業体験のブースを出した。「職業を色々知れてよかった」という感想をいただいた。

市内の中・高生を対象に「職業体験 Expo」を開催した。小学校高学年も含めた企画を現在検討している。直接企業の話の聞いたり体験したりする場を作っていきたい。

消費生活での出前授業では、生活上のトラブルの周知やいかに防いでいくかの対策等について考えさせていく機会としている。

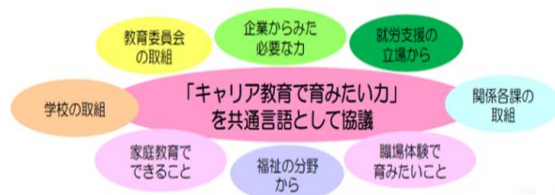
職場体験で大事にしていることは、礼儀や作法。社会性を伸ばす上でも有効。

学校教育の中で、キャリア教育を通して、児童生徒が非認知能力や基礎的・汎用的能力を身に付けてたくましく社会に巣立っていくために、大人の役割は重要。

職場体験の日程を3日間にした。自分で考えて、自分なりに取り組んでみるという自主性が高まる。

小学生の年代から身近なものに興味をもったり、関心を広げたり体験する場を増やしたりすることで、視野が広がる。

うまくできない生徒にどのように教えるか考えていくことが従業員にとっても大切な機会となっている。





青山学院大学
原 晋 教授

職業観の選択を広げるという話題になり、機会を与えることの大切さを改めて感じた。私の父親が教員だったので、私も職業観の中で「先生になりたい」、部員の中でも「親がしていたから、これをやりたい」という職業観をもつ学生が多い。まずは平等に広く機会を与える、それもジュニア期に与えることが非常に有効だと感じている。日本では9割以上が中小企業で社会を支えており、必ずしも大企業だけが仕事場ではない。それをジュニア期から教えていくことで、日本社会全体が潤ってくることに繋がる。

私は、「協調性がない」と言われ続けてきた。協調性とは、「自分の意見をしっかりと言う」ことが大前提であり、同時に「周りの意見も聞きながら、最後にひとつにまとめていく」とのことであった。自分の意見をしっかりと伝えることは必要な要素であるが、それを言わずして事がまとまっていく、決まった後に批判する流れが今はある。それは同調圧力に負けてしまっていることでもある。「協調性」をしっかりとした言葉で整理して子どもたちに伝え、「自ら考え判断し、行動する力」「健全な批判力をつける」ことがとても重要。

失敗には、「シンプルミス」（時間や約束を守らない・うそをつく等）、「システムミス」（仕組みが引き起こす失敗）、「チャレンジミス」（挑戦して生まれる失敗）がある。チャレンジミスについては、初めて取り組むものに失敗は付き物であることを理解する必要がある、真剣に向き合った上でのミスを批判しては、誰もチャレンジしなくなる。チャレンジミスについては、批判せずに挑戦したことを褒める文化をつくるべきだと思っている。その上で失敗をそのままにせず、原因を組織全体で捉えてどう改善していくかということ、指導者や教育者が捉え直す必要がある。



筑波大学
藤田 晃之 教授

これだけ多くの方々の方が職務を超えて時間を捻出し、ひとつの場に集まって意見交換をするのは何のためか。それは子どもたちの未来のためであり、それぞれの委員が楽しそうに意見交換ができていることが重要だと感じている。子どもたちに未来を切り拓く力を育むために最も重要なことは、「私たち大人が楽しそうに生きていること」ではないだろうか。大人の姿を見て、こういう大人にはなりたくない、こんな仕事にはつきたくないと思わせてしまえば、未来を切り拓く力にはならない。こういう大人になりたいという姿を見せることで、子どもたちに未来を切り拓く力が育まれていく。誰でもできることは、笑顔で子どもたちに接すること。生きている中で年中笑ってはいられないが、とはいえ充実感ややり甲斐を感じる瞬間は必ずあり、そういった時に子どもが分かる言葉で、子どもが分かるタイミングで伝えていくことが大切だと思う。

協議の中で、障がいをもつ方々との接点を重要視しながら地域との連携を進めていく事例がいくつもあった。生産年齢人口が減ってきている中で、外国にルーツを持つ方や外国から来た方、また文化や宗教が違う、育ってきた背景が違う方々と共に働いていく基盤をつくり、どう接していくべきか考えていく必要がある。そして、生活に「しんどさ」（障がいをもつ、高齢者、外国にルーツをもつ、LGBTQ+等）を抱える方々への感受性を高め、どのように共感していくかが重要。

シンプルミス、システムミス、チャレンジミスの話が原委員からあったが、まさにこれはキャリア教育のことであり、チャレンジしたことに対しては褒めるべきだということに共感する。相模原の言葉に置き換えるならば「乗り越える力」であり、チャレンジしたことで失敗をしたならば、それを乗り越えていく力をどうつけていくか、まさにキャリア教育で一番重要なことを原委員が話してくれたと思っている。

※キャリア教育推進委員会の会議録は、市ホームページにも掲載しています。

https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/res/projects/default_project/page/001/028/963/20250516.pdf

キャリア教育パンフレットを発行しました ～ご活用ください～

相模原市内で行われているキャリア教育の取組をまとめた「相模原市キャリア教育パンフレット」を発行しました。ぜひご一読いただくとともに、保護者の皆様や地域の皆様への周知にもご活用ください。

※相模原市キャリア教育パンフレットは、市ホームページにも掲載しています。

https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/res/projects/default_project/page/001/021/181/pamphlet.pdf

